



ドイツに住む、かわいらしい女性から、美しいカードが送られてきました。薄桃色の薔薇が 露に濡れながらも 日差しを受けて 香り高く 優美に 咲き誇ろうと待ち構えている一瞬の姿に見えます。余りに美しいカードなので、ため息をつきながら、眺めています。私のベランダの四季咲の薔薇たちも今、名残の秋を彩ってくれています。

ドイツ語の言葉が記されています。おぼつかない記憶と辞書を頼りに読んでみました。

ありがとうございます
私は一輪の薔薇に込めて、ありがとうございますを言いたいのです
あなたが私に送って下さった溢れる友情にたいして

私の心の中にはひとつも迷いはありません
私の魂を ゆだねて 信頼しているからです

この短い詩的な言葉はドイツの詩人ローター・ハブラーのものようです。わずかばかりの故郷の味を送ったことに、こんなに喜んでくれてうれしいです。外国に住むということは、言葉の壁があって孤独を感じるし、文化、表現の違いがあって、大変なストレスだと海外生活体験者の友人たちはいつも言っています。

どんな時も、私たちは神様に祈ることによって、心が解き放たれていき、喜びと安らぎを味わいます。祈りの言葉がうまく口に出なくても、魂の叫び、思い、願いが、必ず、神様に届くと実感できます。柔らかに、自然にまかせて、無言のまま咲いている、この薄桃色の薔薇のように、私も神様に委ねて、精一杯生きたいと願います。美しいね、と神様に思っていただけのように。